

## 16. 口蹄疫発生に伴う種雄牛の対応について

農林水産研究指導センター畜産研究部 豊後牛改良チーム

○河野宣彦 (病鑑) 堀浩司 小倉宏二

黒田誠 大塚高司

### 【はじめに】

2010年4月20日に宮崎県で口蹄疫の発生が確認され、その後、同県の畜産地帯を中心に感染が拡大した。また、その中で、万全の防疫体制をとっていたにも関わらず、宮崎県家畜改良事業団の種雄牛の感染も確認された。

本県でも、県境防疫等の徹底は図っていたものの、畜産研究部（以下当部）は基幹種雄牛12頭、次世代種雄牛20頭を抱えており、全滅を避けるためにできる限りの防疫措置を講じたので、その概要を報告する。

### 【発生前の防疫体制】

口蹄疫発生前の当部の防疫体制で、図面右側が南で左側が北で、敷地の中央を道路が縦断しており、赤い矢印が竹田市立道、黄色の矢印が里道。日頃から、ある程度の一般車両の入場は規制できても、完全な遮断は不可能な状況にあった。

(図-1)

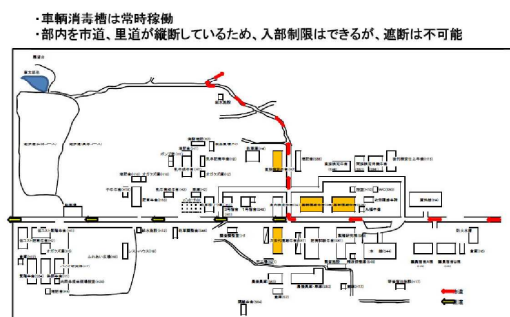


図-1 口蹄疫発生前の防疫体制

### 【発生後の緊急措置】

口蹄疫発生後の緊急防疫措置状況で、地域住民の了承を得て、一般車両の通行は遮断した。やむを得ない場合の入部も南側1カ所のみとし、これまでは踏込消毒槽のみであったその入口に、ゲート式の車輛消毒装置を設置した。

入口の外に職員用の砂利駐車場を設け、徒歩で入部し、所定の場所で部内専用長靴に履き替え、防疫服を着用し、噴霧器で全身を消毒後、各持ち場に向かい、部内のみで使用する作業着に着替えて、作業に従事するようにした。(図-2)

また、6月早々に、部内で疑わしい事例が確認されたとの想定の下に、部総括会議のなかで、机上演習を行うとともに、発生に備えたタイムスケジュール等を確認した。(表-1)

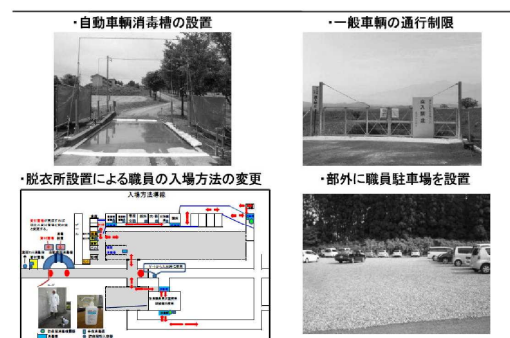


図-2 口蹄疫発生後の部内緊急措置



改修工事中の様子で、上段中央の写真は、種雄牛が段差を嫌うため、取り除いているところであり、また、角で支柱を外してしまわないよう補強も行った。(図-5)

改修後の様子で、隣接する牛同士がつつきあわないよう、コンパネを四方に張り巡らせた。

また、旧管理棟は、外部からの来客者の着替え、長靴履き替えスペースとして利用し、新たにリースで管理棟を借りた。

周辺が藪に囲まれており、蚊等衛生害虫が多く見られたため、駆除対策も図らなければならなかった。(図-6)



図-5 発生リスクの分散①



図-6 発生リスクの分散①

種雄牛を移動させているところで、当日は報道関係者も訪れたが、入部は断ったため、入口周辺で待機していた。9日の7頭は畜産専用大型トラック2台、15日の4頭は1台で移動させた。(図-7)

移動が終了し、国東町畜産公社に搬入された後の牛の状況で、ほとんどの牛が、畜産研究部に種雄牛の候補として入部してから、トラックに乗ったりする経験は無かったが、割とスムーズに移動させることができた。(図-8)

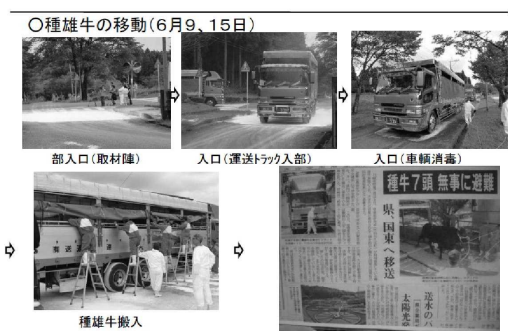


図-7 発生リスクの分散①



図-8 発生リスクの分散①

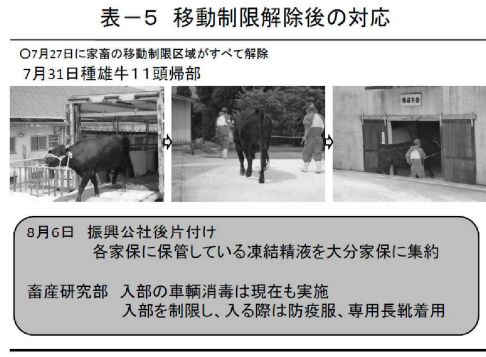
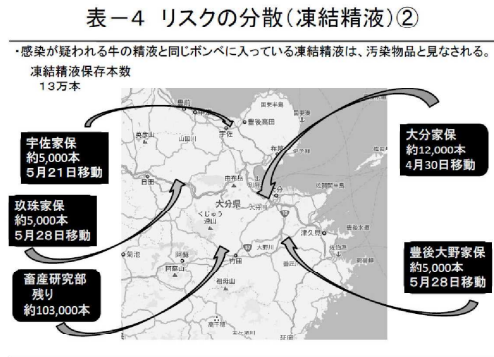
次に凍結精液の分散保管について報告する。

当時、当部には約 13 万本の凍結精液が保管されていた。感染が確認された牛で作成された精液と、同じボンベに入っている精液は、全て廃棄処分になるとのことから、全体の 1/4 にあたる 27,000 本を分散して、全滅を回避することとした。

分散は、県下に 4 カ所ある家畜保健衛生所に凍結精液を入れたボンベを持込み、それぞ

れの職員に管理を依頼した。(表-4)

7月27日に家畜の移動制限が全て解除されたことを受け、7月31日土曜日に11頭全ての種雄牛を畜産研究部に戻した。(表-5)



**【今後の対応】**

これまでの対応を踏まえ、今後の対応として、部内の完全に通行遮断ができる場所、閉鎖空間エリアに新たに32頭規模の完全閉鎖可能な種雄牛舎を建設することとなり、現在、建設中。

(図-9)

また、日本は本年2月5日にワクチン非接種口蹄疫清浄国に認定されたが、隣国等ではその後も口蹄疫が発生しており、いつまた、国内、県内で発生してもおかしくない状況にある。

このため、緊急に種雄牛の分散飼育が必要になるケースが想定され、いつでも対応できるよう、分散飼育の場所をあらかじめ選定している。

宇佐市にある県の施設で、当部とは直線距離で56km離れており、県内では比較的偶蹄家畜の飼養密度が薄いなど環境等も恵まれている。(表-6)

分散候補地が決まっても、牛を入れる牛舎の建設に時間がかかるようでは話にならないため、地元の業者に、依頼から牛の移動までを一週間で出来、強度等も問題のない施設

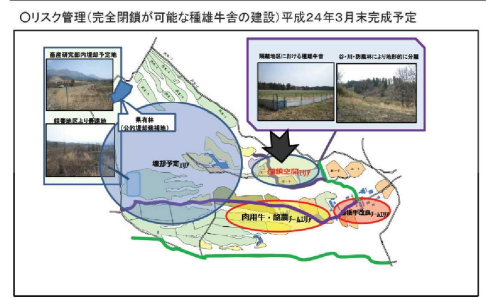


図-9 今後の対応①

表-6 今後の対応②

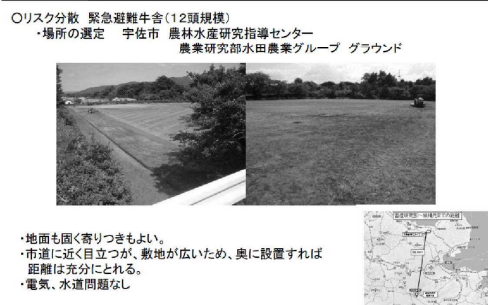
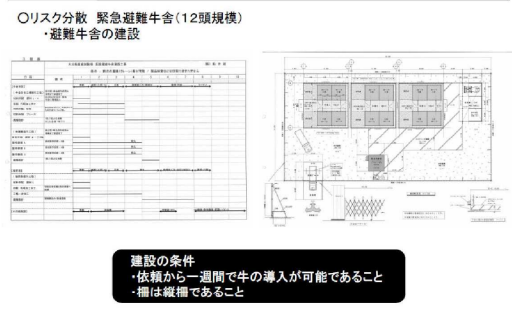


表-7 今後の対応②



を、何時でも作れる準備を依頼している。その図面と工程表を示した。(表－7)

**【まとめ】**

宮崎県で口蹄疫が発生し、隣県である本県は、畜産農家はもとより、出来る限りの防疫体制をとってきた。

今回、口蹄疫の大分県での発生はなかったが、高病原性鳥インフルエンザは発生しており、いつ、どこで、どんな伝染病が発生するか分からない状況にあるため、常日頃から、危機管理を徹底していきたいと考えている。